



# 福島県立 福島東高等学校

令和7年度

## 学校経営・運営ビジョン

### 創立当時から続く本校の在り方

#### 学校の教育の目標

新しい時代における自己の役割を確かめ、社会に貢献できる有為な人間を育てるために知・徳・体の調和を重んじ、豊かな教養と正しい判断力を身につけさせる。

#### 校訓 (⇒育成したい生徒像＝グラデュエーション・ポリシー)

- 創造** 創造の精神を尊び、積極的に自己開発に努める人間を育成する。
- 協調** 人類を愛し、知性を重んじ、情操の陶冶に努める人間を育成する。
- 躍進** 心身ともに健康で、明るく調和のとれた人間を育成する。

#### 教育理念 (校是)

**文武両道** 学習への集中した取組と部活動への積極的な取組との両立。

### スクールミッション(令和5年2月10日策定)

- 校訓「創造」「協調」「躍進」、校是「文武両道」のもと、県北地区の進学指導重点校に位置する普通科の高校
- 校訓のもと、社会や地域を「創造」し、対話と協働により多様な個性と「協調」し、自分の人生を切り拓き「躍進」する力を身に付けた、自らと社会を変革するリーダーを育成する学校
- 教育等へ高い志を持つ生徒の進路実現を図り、多様な個性・能力の伸長を目指す質の高い正課と課外活動の充実を通して、個人と社会の Well-being※を実現する能動的市民性を身に付ける学校

※ Well-being とは、子どもたち一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せを示す言葉。

## 〔教育目標等を実現するための重点目標と、その達成のための具体的方策〕

『東高の新しい文化と歴史は私たちが創る』の自負のもと、**対話型高等学校 (Interactive High School)** という新しい進学校の在り方を追求します。そのため、常に授業や行事、業務の見直しと改善を行います。

#### 重点目標1

#### 対話による生徒把握

- 生徒との面談で、学習方法の理解や学習習慣の定着度、そして悩みやつまづき等、生徒の状況を把握し、個別に支援
- 生徒との対話(コミュニケーション)しながら、授業、行事などの改善を図る

#### 重点目標2

#### 質の高い授業の実施

- 一時間一時間の授業で勝負！  
(予習で授業の密度を上げる)
- 驚き・発見・思考・楽しさのある授業
- 週30単位授業に対応した授業研究  
(進度計画、授業と自学のバランス)

#### 重点目標3

#### 生徒が自らを鍛える「鍛求」の充実

- 部活動をはじめとする課外活動を推進し、生徒が自らを鍛える「鍛求」の推進により「見えない力」の向上を支援
- 文・武のバランスへの適切な指導と支援
- 心に火を灯す多様な学びの場を提供

#### 重点目標4

#### 真理を追求する「探究」の充実

- 生徒がより深く「探究」に没頭できる環境を整備するため、これまでの探究活動の見直しを図る
- キャリア教育の充実により、生徒による自らの進路探究を支援

- 教員と生徒の面談(対話)を繰り返し行うことで、**生徒把握**に努めるとともに、一人一人の生徒に合わせた、適切な助言・指導を行います。
- 生徒の支援者(メンター)としての資質と技能を高めます。
- 全体指導と個別指導を織り交ぜ、必要な伝達やガイダンスを行い、生徒の「わからない」、「できない」の解消に努めます。
- 学校と家庭の役割を明確にするとともに、家庭に対しては、生徒の**生活習慣、学習習慣**の質と量の確保や、生徒が安心して休息できる**居場所**の確保などの家庭の役割について理解を求め、協力して生徒の進路実現、自己実現を図ることができるよう、協力体制を構築する。
- 授業や行事の運営、校則等の検討について、生徒との**対話**を積極的に取り入れることで、生徒の思考力や表現力の育成を図りながら、必要な改善を行う。

- 特に、1学年の授業においては、週30単位に対応するため、3年間及び1年間の授業計画の見直しを行うとともに、日々の授業をより重視し、予習を前提として授業展開を行うなど、**一時間一時間の「授業の質」**の向上を図る。
- 「**学習の自走**」の習慣化を図るため、「**自己探求の時間(自己探)**」の時間や自習の時間の使い方、また、学習法や学習計画の立て方など、徹底したガイダンスや指導を行います。
- **学びのプロフェッショナル**として、教材研究に努め、授業の学習効果を高めるとともに、**教育のプロフェッショナル**として、生徒理解に基づく一人一人に応じた指導を実践することで、教育効果を高めます。
- 生徒たちが、**学びに没頭**できる機会や時間を確保するため、常に学校の在り方を見直し、**改善**を図ります。

- 好奇心や協調性、粘り強さなど、社会に出て必要とされる、いわゆる「**見えない力(非認知能力)**」の育成に努めます。
- 部活動をはじめとして、生徒会活動や各種行事、授業など、学校のあらゆる教育活動を通して、生徒に様々な経験を積ませ、生徒が**自らを鍛える「鍛求」**の姿勢を育みます。
- 教科指導以外の多様な学びの機会を提供し、好奇心を刺激することに加え、生徒が自分の頭で熟慮する過程を通して、物事にしなやかに対応できる能力を育成します。
- 生徒たちが、無理なく、**自らの「文武両道」**を実現できる機会と時間を提供するとともに、面談(対話)の中で適時に適切な指導を行うことで、生徒たちが内在する力を引き出します。

- **探究活動**をより充実させ、生徒たちが物事に深く関心を持ち、それを追究しようとする意志や態度を育みます。
- 探究活動を通して、自らが長けている部分や必要だが足りないものは何かを理解する「**自己理解**」を促すことで、「もっと学びたい」、「この分野を深く学びたい」という、「**学びに向かう力**」を育成します。
- 生徒が進路目標を見定めるとともに、目標達成までの行程を自ら計画できるよう、**キャリア教育**を充実させることで、生徒の進路実現に向けた進路探究の活動を支援します。
- 図書館や進路指導室を充実させるなど、生徒たちが**学びに向かうことのできる環境**を、工夫を重ねながら改善します。